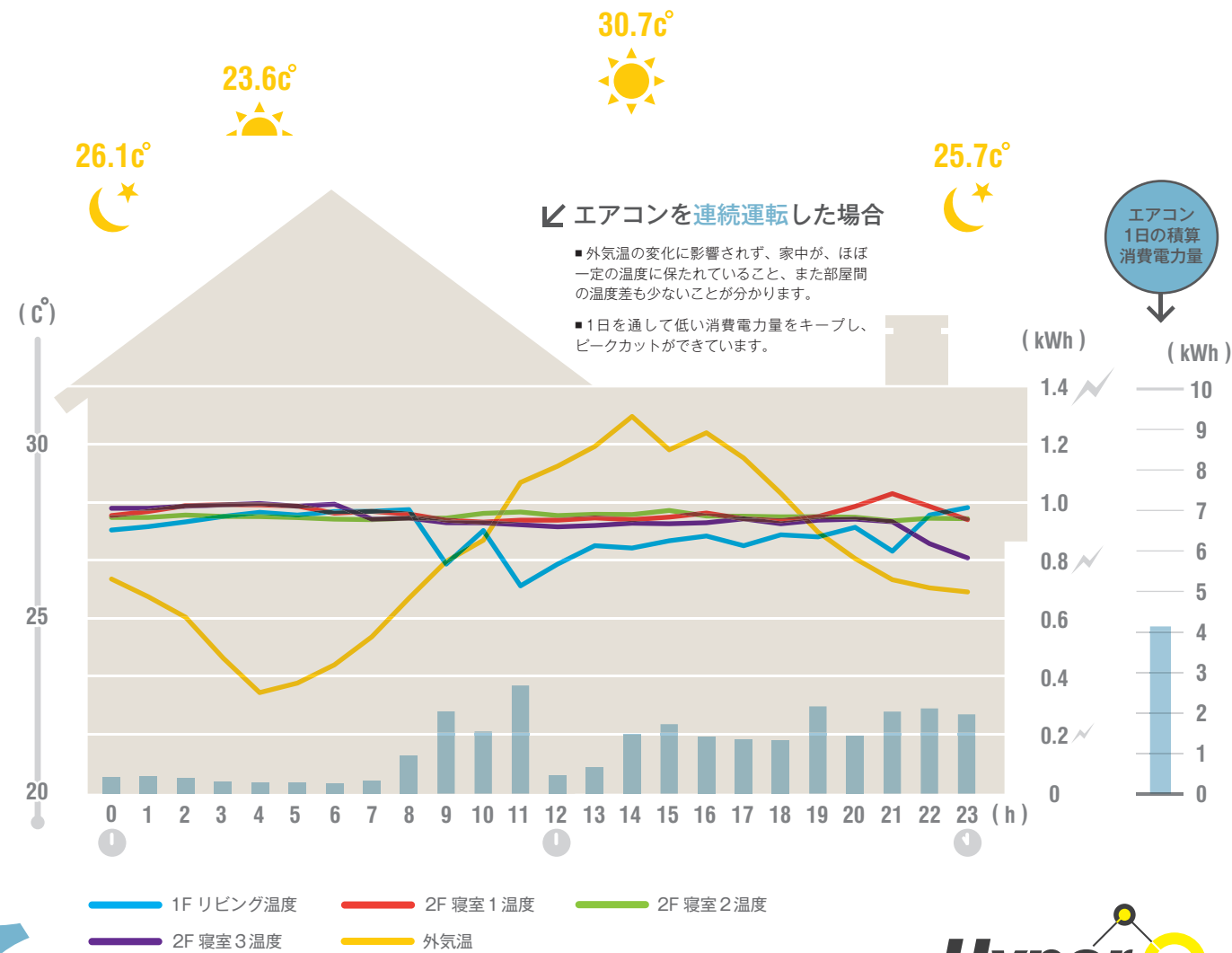
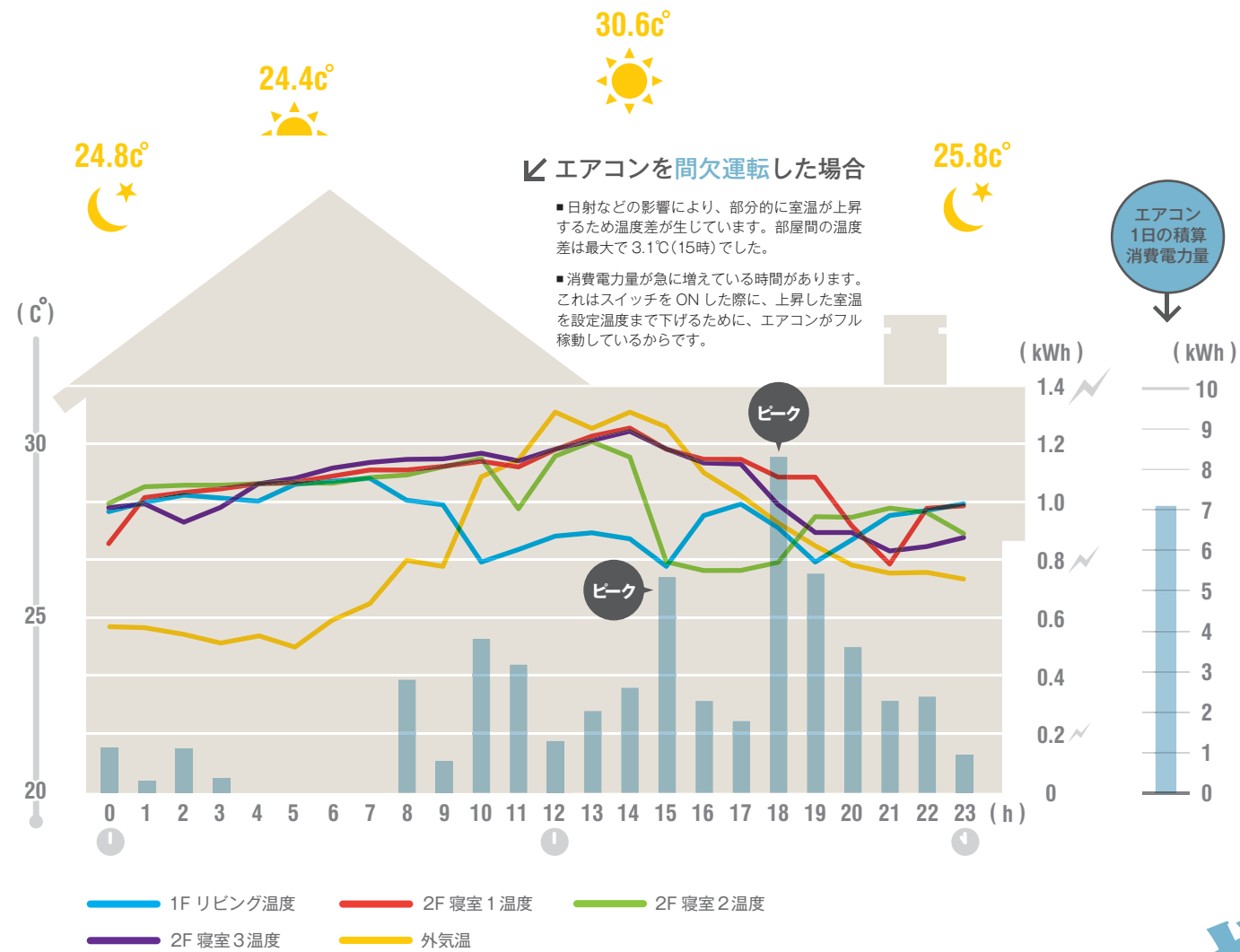




やさしい節電を。この夏はカラダに

Hyper Standard
全ての技術は、その先の心地よさのために。

○どんなときも、家は心地よい場所であるべき。

電力不足の折、今年の夏も節電を求める声が高まっています。節電はもちろん大切なことです。しかし電気を節約するために冷房を止め、暑さを我慢しすぎて自宅で熱中症に…そんなニュースを昨夏も何度か耳にしました。家は本来、暮らしを、そして家族を守る場所のはず。その家で、どんなときも心地よく健康的な環境を維持できるかどうかは、まず家の基本性能そのものが問われるべきではないか、というのがスウェーデンハウスの考え方です。

その決め手になるのが、家の「蓄冷性能」。つまり高い気密性能・断熱性能によって外気温の影響を抑え、一度冷えた室内を暑くなくにくくし、わずかなエアコン稼働で涼しい室内をキープする性能です。また冬には、この性能が暖かい空気を室内に蓄える「蓄熱」の効果

○蓄冷する性能＋エアコン連続運転が、生み出す節電効果。

を發揮します。このように、少ない消費電力量で心地よい室内を維持できるのがスウェーデンハウス。夏と冬の効果が相まって、年間エネルギー消費量が一般の住宅に比べ約4割も少ない省エネ性能を実現しているのです。＊

夏の「蓄冷性能」は、スウェーデンハウスが薦めるエアコン24時間連続運転によって、節電効果を生み出します。

上のグラフをご覧ください。いずれも夏にスウェーデンハウスのあるオーナー様宅で計測したものです。右図はエアコンを連続運転した場合、左図は間欠運転をした場合です。

室内の温度変化を示す折れ線グラフを比較すると、エアコンの連続運転をした場合には、室温変化の少ない状態が保たれているのが分かる。

ります。また消費電力量の棒グラフを比べると、連続運転の方は一定して低い消費電力量が維持されています。これは「蓄冷」の効果によって涼しさが保たれている室内で、エアコンが温度センサーによってわずかな室温の変化を感じし、細かく運転を制御しているから。微量な消費電力で室温を維持している様子がグラフに現われたものです。

一方、間欠運転の棒グラフでは急激に消費電力量が増えている部分があります。これは「暑い」と感じた時点でスイッチを入れたエアコンが、多くの電力を使って一気に室温を下げようとしている状態を示すもの。もし気密性能・断熱性能の低い住宅で同様に間欠運転時の状態を調べたなら、室温の変化はさらに著しくなり、エアコンの消費電力量もいっそう多くなります。

○無理なく節電しながら、快適な環境を保つこと。

室内環境の快適さには、湿度も

大切な要素です。天気予報で耳にする「不快指数が高い」とは、温度と共に湿度が上がった状態のこと。湿度が上がると体感温度も上がり、不快感が強くなります。

エアコンを冷房運転させると同時に湿度も下がります。スウェーデンハウスは高い気密性能と24時間換気システムの組み合わせにより、一度下がった湿度の低さもキープ。温度だけでなく、カラッとしたい気持ちのいい空気も維持できるのです。

また自然エネルギーを上手にコントロールすれば、より一層節電をすることも可能になります。たとえばオーニングで陽差しを遮れば、より効率よく室内の涼しさを保つことができます。こうした性能を備えているのは、スウェーデンハウスの、どんな環境下でも住まい手の快適を守る家づくりを追求しているから。カラダもココロも健康的にお住まいいただくための性能が、無理のない節電を可能にしているのです。